

## ■带状疱疹とは

子どもの頃に感染する「水ぼうそう」のウイルスが、治癒した後も体内に潜伏し、大人になって免疫力が低下した際に発症する病気です。70歳代で発症する方が最も多く、体の片側に発疹や痛みが現れます。

带状疱疹の合併症として、3か月以上痛みが続く带状疱疹後神経痛（PHN）、視力低下やめまい、耳鳴りなどが見られることもあります。

## ■ワクチンの種類と接種方法等

種類	乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」 (生ワクチン)	乾燥組換え带状疱疹ワクチン「シングリックス」 (不活化ワクチン)
接種回数(接種方法)	1回(皮下に接種)	2回(筋肉内に接種)
接種スケジュール		通常、1回目の接種から2か月以上の間隔を置いて2回目を接種 ※病気や治療により、免疫機能が低下した又は低下する可能性のある方等は、医師が早期の接種が必要と判断した場合、接種間隔を1か月まで短縮できる。

## ■予防接種を受けることができない方

### 《両ワクチン共通》

- (1)明らかに発熱(通常37.5度以上)している方
- (2)重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
- (3)過去にワクチンの成分によって強いアレルギー症状(通常接種後30分以内に出現する血圧低下、呼吸困難や全身の蕁麻疹を伴うアレルギー反応)を起こしたことがある方
- (4)医師が予防接種を受けることが不相当と判断した人

### 《以下、生ワクチンの場合》

- (1)化学療法やステロイドなど免疫を抑える治療をしている方
- (2)免疫力が落ちている方(HIV感染等)
- (3)妊娠していることが明らかな方
- (4)輸血、ガンマグロブリン製剤を使用して3か月以内、ガンマグロブリンの大量療法投与後6か月以内の方
- (5)他の生ワクチン(麻しん、風しん等)を接種して27日以内の方

## ■接種に注意が必要な方(接種にあたり医師とよく相談してください)

- (1)心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患があることが明らかな方
- (2)予防接種後2日以内に発熱したことがある方、または全身性発疹などのアレルギーを疑う症状になったことがある方
- (3)過去にけいれんを起こしたことがある方
- (4)免疫不全の診断を受けている方、及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- (5)水痘・带状疱疹を予防するワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある方
- (6)血小板が少ない方や出血しやすい方(過去の注射で血が止まりにくいなど)
- (7)最近1か月以内に予防接種を受けた方

## ■予防接種の効果

	乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」 (生ワクチン)	乾燥組換え帯状疱疹ワクチン「シングリックス」 (不活化ワクチン)
接種後1年時点	6割程度の予防効果	9割以上の予防効果
接種後5年時点	4割程度の予防効果	9割程度の予防効果
接種後10年時点	—	7割程度の予防効果

※合併症の一つである、帯状疱疹後神経痛に対するワクチンの効果は、接種後3年時点で、生ワクチンは6割程度、組換えワクチンは9割以上と報告されています。

## ■予防接種の安全性

予防接種を受けた後に以下のような副反応がみられることがあります。接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

主な副反応の発現頻度	乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」 (生ワクチン)	乾燥組換え帯状疱疹ワクチン「シングリックス」 (不活化ワクチン)
70%以上	—	痛み*
30%以上	発赤*	発赤*、筋肉痛、疲労
10%以上	かゆみ*、熱感*、腫れ*、痛み*	頭痛、腫れ*、寒気、発熱、胃腸症状
1%以上	発疹、倦怠感	かゆみ*、倦怠感

\*ワクチンを接種した部位の症状 各社の添付文書より厚労省にて作成

## ■他の予防接種との同時接種・接種間隔

いずれの帯状疱疹ワクチンについても、医師が特に必要と認めた場合はインフルエンザワクチンや新型コロナワクチン等の他のワクチンと同時接種が可能です。ただし、生ワクチンについては、他の生ワクチンと27日以上の間隔を置いて接種してください。

## ■予防接種を受けた後の注意

- (1) 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- (2) 予防接種を受けた日の入浴は可能ですが、注射したところをこすらないでください。また、激しい運動や大量の飲酒は避けてください。

## ■予防接種による健康被害救済制度について

帯状疱疹ワクチンにより重い副反応が生じ、入院治療が必要なほどの健康被害が生じた場合は、医療費および医療手当等の給付により、健康被害を救済する制度があります。救済を申請し、国による審議の結果、予防接種と健康被害の因果関係があると認定された場合は、救済を受けることができます。

## ■その他の注意事項

- (1) 接種については任意です。
- (2) どちらのワクチンが良いか等のご相談は町では対応しておりません。ワクチンの効果や特徴、副反応の発生頻度、自己負担額などを参考にご判断ください。特に基礎疾患のある方は、主治医と相談の上で接種するワクチンをご選択ください。